2025 年 4 月 30 日
IR センター

「2024 年度学生生活アンケート」結果――実施概要，回答状況について

■実施概要，回答状況■

本学では，学生の考えや行動を把握し教育環境の質を向上させ，学生の満足度を高めることを目的として，学生を対象とした「学生生活アンケート」を年 1 回，実施しています。

本調査は WEB アンケートシステムを用いて行い，毎年，半数以上の学生から回答を得ています。2024 年度調査の対象者，方法，期間等および回収状況は以下のとおりです。今回の回答率は 61.05%で，前回 2023 年度調査から 6.65 ポイントの増加となりました（表 1，【参考】）。

（1）調査の対象　　2024 年度本学在籍学生（休学生を除く）。

（2）調査の方法　　WEB アンケートシステムにて実施。無記名。

（3）実施期間　　2024 年 12 月 9 日（月）～12 月 20 日（金）

（4）回答状況

表 1　2024 年度調査の回答状況

2024年度	全体	国際英語	史	心理	日本文化	幼児教育	児童教育	生活文化	観光文化	目白C	我孫子C
学生数	570人	48人	101人	99人	65人	83人	28人	77人	69人	117人	453人
回答者数	348人	26人	69人	64人	41人	58人	18人	48人	24人	50人	298人
回答率	61.05%	54.17%	68.32%	64.65%	63.08%	69.88%	64.29%	62.34%	34.78%	42.74%	65.78%

【参考】2021～2023 年度の回答状況

2023年度	全体	国際英語	史	心理	日本文化	幼児教育	児童教育	生活文化	観光文化	目白C	我孫子C
学生数	818人	76人	132人	141人	80人	119人	48人	112人	110人	186人	632人
回答者数	445人	47人	82人	68人	44人	89人	25人	49人	41人	88人	357人
回答率	54.40%	61.84%	62.12%	48.23%	55.00%	74.79%	52.08%	43.75%	37.27%	47.31%	56.49%

2022年度	全体	国際英語	史	心理	日本文化	幼児教育	児童教育	生活文化	観光文化	目白C	我孫子C
学生数	991人	108人	150人	156人	106人	149人	67人	116人	139人	247人	744人
回答者数	509人	40人	94人	70人	56人	115人	38人	53人	43人	83人	426人
回答率	51.36%	37.04%	62.67%	44.87%	52.83%	77.18%	56.72%	45.69%	30.94%	33.60%	57.26%

2021年度	全体	国際英語	史	心理	日本文化	幼児教育	児童教育	生活文化	観光文化	目白C	我孫子C
学生数	1123人	136人	160人	175人	111人	174人	73人	128人	166人	302人	821人
回答者数	571人	61人	93人	88人	73人	81人	47人	62人	66人	127人	444人
回答率	50.85%	44.85%	58.13%	50.29%	65.77%	46.55%	64.38%	48.44%	39.76%	42.05%	54.08%

2025 年 4 月 30 日
IR センター

「2024 年度学生生活アンケート」結果――満足度について

■分析方法■

「満足度」や「大学への帰属意識」に係る設問は 12 問あります（図 1 参照）。

各設問に対して，「あてはまらない」「ややあてはまらない」「ややあてはまる」「あてはまる」の 4 択で回答してもらいました。

分析では回答をポイント化し（「あてはまらない」=1，「ややあてはまらない」=2，「ややあてはまる」=3，「あてはまる」=4），その平均を過去 4 年の値と比較しました。

2024 年度は調査対象者数 570 名のうち回答が得られた 348 名（回答率 61.05%）の結果を分析しました。

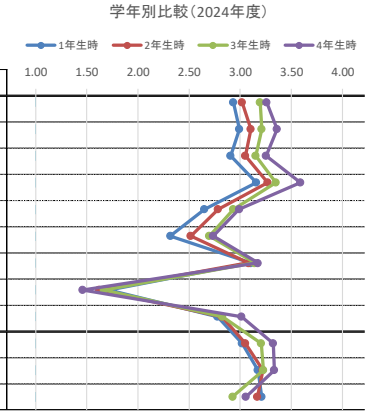
■分析■

まず，2024 年度卒業生の在学中の満足度の推移（1 年生時（青），2 年生時（赤），3 年生時（緑），4 年生時（紫））をみると，年次が進むにつれて概ね満足度が高くなる傾向にあります（図 1）。2024 年度卒業生はコロナ禍に様ざまな制約のもとで大学生活を開始したためもあってか，本学への否定的感情（問 13）が比較的，高かった世代だが（1 年生時に 1.72），4 年生時には 1.46 まで低下しており，否定的感情をある程度，解消して卒業した様子がうかがえます。

図 2 で，過去 4 年における回答者全体の満足度の推移をみてみると，ほとんどの項目で年々，上昇している様子がみられます。とりわけ，女子大学らしさについてのポイント（設問 15～16）は顕著に高く，本学が打ち出す女子大学らしさを学生も肯定的に受けとめている様子がうかがえます。建学の精神の認知度（設問 17）は今後の課題です。

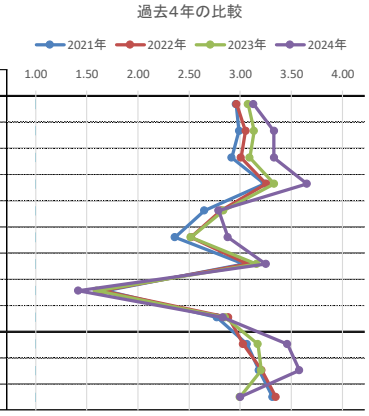
図 3 をみると，在籍している学年別の満足度は総じて年次が進むにつれ高くなる傾向にありますが，1 年生にポイントが低い設問 10（周囲に入学を勧めたいか）や設問 11（本学学生であることを誇りに思うか）は 2 年生，3 年生でも低いままであり，今後の課題です。

図１　満足度（卒業生、在学中の推移）



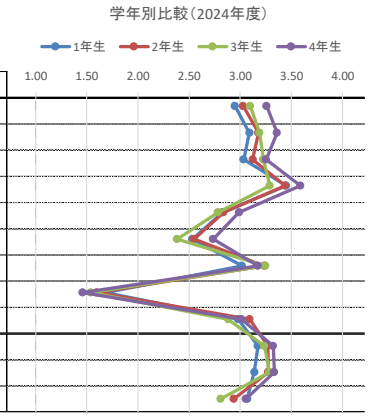
		項番	設　問	1年生時	2年生時	3年生時	4年生時	傾向
満足度	②満足度・帰属意識	6	自分の生活に満足している	2.94	3.02	3.20	3.26	
		7	大学の勉強に満足している	2.99	3.10	3.21	3.36	
		8	川村学園女子大学での大学生活に満足している	2.91	3.05	3.15	3.25	
		9	所属している学科に入って正解だったと思う	3.16	3.27	3.35	3.59	
		10	川村学園女子大学の学生であることを誇りに思う	2.65	2.78	2.93	2.99	
		11	友人、後輩、妹などに川村学園女子大学に入学することを薦めたい	2.32	2.52	2.70	2.74	
		12	川村学園女子大学でできた人間関係はかけがえのないものだ	3.10	3.08	3.14	3.17	
		13	川村学園女子大学が嫌いだ	1.72	1.62	1.67	1.46	
		14	はっきりとした目的があって大学に入学した	2.78	2.82	2.83	3.01	
	③女子大の精神・建学	15	入学してから女子大でよかったと思った	3.02	3.05	3.20	3.32	
		16	授業などに女子大らしさがあると思う	3.17	3.22	3.23	3.33	
		17	建学の精神を知っている	3.21	3.17	2.92	3.06	

図２　満足度の過去４年の推移（2021～2024 年度、回答者全体）



		項番	設　問	2021年	2022年	2023年	2024年	傾向
満足度	②満足度・帰属意識	6	自分の生活に満足している	2.96	2.96	3.08	3.13	
		7	大学の勉強に満足している	2.99	3.05	3.13	3.33	
		8	川村学園女子大学での大学生活に満足している	2.92	3.01	3.09	3.33	
		9	所属している学科に入って正解だったと思う	3.24	3.26	3.33	3.65	
		10	川村学園女子大学の学生であることを誇りに思う	2.65	2.81	2.84	2.79	
		11	友人、後輩、妹などに川村学園女子大学に入学することを薦めたい	2.36	2.52	2.52	2.88	
		12	川村学園女子大学でできた人間関係はかけがえのないものだ	3.04	3.07	3.16	3.25	
		13	川村学園女子大学が嫌いだ	1.68	1.64	1.60	1.42	
		14	はっきりとした目的があって大学に入学した	2.77	2.89	2.85	2.83	
	③女子大の精神・建学	15	入学してから女子大でよかったと思った	3.07	3.03	3.17	3.46	
		16	授業などに女子大らしさがあると思う	3.18	3.21	3.20	3.58	
		17	建学の精神を知っている	3.32	3.35	3.00	3.00	

図３　満足度の比較（学年別）



		項番	設　問	1年生	2年生	3年生	4年生	傾向
満足度	②満足度・帰属意識	6	自分の生活に満足している	2.95	3.03	3.10	3.26	
		7	大学の勉強に満足している	3.09	3.18	3.19	3.36	
		8	川村学園女子大学での大学生活に満足している	3.03	3.12	3.23	3.25	
		9	所属している学科に入って正解だったと思う	3.45	3.44	3.29	3.59	
		10	川村学園女子大学の学生であることを誇りに思う	2.83	2.84	2.78	2.99	
		11	友人、後輩、妹などに川村学園女子大学に入学することを薦めたい	2.53	2.55	2.38	2.74	
		12	川村学園女子大学でできた人間関係はかけがえのないものだ	3.02	3.23	3.25	3.17	
		13	川村学園女子大学が嫌いだ	1.68	1.60	1.54	1.46	
		14	はっきりとした目的があって大学に入学した	2.98	3.09	2.88	3.01	
	③女子大の精神・建学	15	入学してから女子大でよかったと思った	3.17	3.27	3.24	3.32	
		16	授業などに女子大らしさがあると思う	3.14	3.28	3.28	3.33	
		17	建学の精神を知っている	3.07	2.94	2.81	3.06	

2025 年 4 月 30 日
IR センター

「2024 年度学生生活アンケート」結果――学生の意欲について

■調査と分析方法■

学生の意欲や大学生活，課外活動に係る設問は 9 問あります（下図参照）。

各設問に対して，「あてはまらない」「ややあてはまらない」「ややあてはまる」「あてはまる」の 4 択で回答してもらいました。

分析では回答をポイント化し（「あてはまらない」=1，「ややあてはまらない」=2，「ややあてはまる」=3，「あてはまる」=4），その平均を過去 4 年の値と比較しました。

2024 年度は調査対象者数 570 名のうち回答が得られた 348 名（回答率 61.05%）の結果を分析しました。

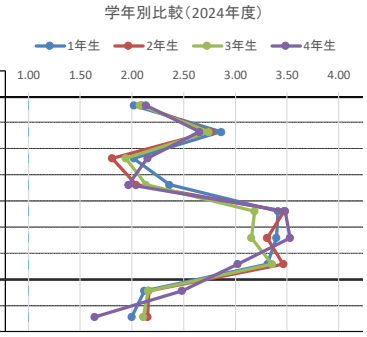
■分析■

学生の意欲を学年別にみると（図 4），いずれの学年でも資格や将来，卒業後の進路などキャリアに対するポイントが 3.00 を上回り，学生の意識・関心の高さがわかります。一方，設問 20 や設問 21，25，26 の結果にみられるように，学内外の自主的な活動に関するポイントは 2.00 前後とあまり高くありません。

過去 4 年の推移をみると（図 5），大学内・外での活動への意欲が 2024 年度に上昇していますが（設問 20，21），留学への意欲（設問 18）や部活動・サークル活動への参加（設問 26）の値の低下が目立ちます。

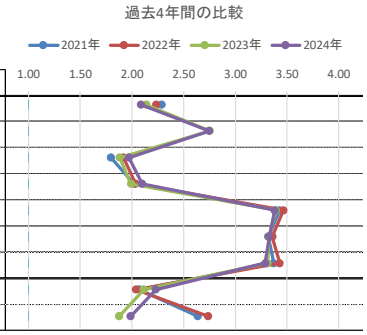
これをキャンパス別にみると（図 6），キャリア意識は我孫子キャンパス・目白キャンパスいずれも高いものの，総じて目白キャンパスの方が高い値を示しており，とくに留学への意欲（設問 18）と学内イベントへの意欲（設問 21），学友会の認知度（設問 25）で目白キャンパスの学生のポイントが高くなっています。

図 4　学生の意欲（学年別、回答者全体）



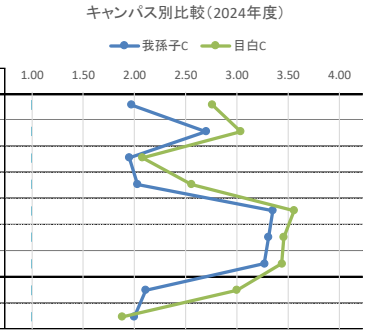
		項番	設　問	1年生	2年生	3年生	4年生	傾向
学生の意欲	④チャレンジ精神・キャリア	18	機会があれば留学をしてみたい	2.02	2.09	2.08	2.14	
		19	ボランティア活動に参加したい	2.86	2.77	2.75	2.66	
		20	大学の授業や学友会等の課外活動以外で取り組んでいる活動がある	2.02	1.81	1.94	2.15	
		21	機会があれば大学を盛り上げるイベントなどを企画・実行してみたい	2.36	2.04	2.14	1.97	
		22	資格に結びつく勉強をしたい	3.41	3.47	3.19	3.48	
		23	将来について考えている	3.40	3.31	3.16	3.53	
		24	卒業後の進路についていろいろ知りたい	3.31	3.46	3.35	3.02	
	⑤大学生活・課外活動	25	学友会の活動内容について知っている	2.12	2.16	2.16	2.48	
		26	大学内の部活動・サークル活動に入っている	2.00	2.15	2.11	1.64	

図 5　学生の意欲の過去 4 年の推移（2021～2024 年度、回答者全体）



		項番	設　問	2021年	2022年	2023年	2024年	傾向
学生の意欲	④チャレンジ精神・キャリア	18	機会があれば留学をしてみたい	2.29	2.24	2.14	2.09	
		19	ボランティア活動に参加したい			2.76	2.75	
		20	大学の授業や学友会等の課外活動以外で取り組んでいる活動がある	1.80	1.92	1.88	1.97	
		21	機会があれば大学を盛り上げるイベントなどを企画・実行してみたい	2.02	2.04	1.99	2.10	
		22	資格に結びつく勉強をしたい	3.43	3.46	3.39	3.38	
		23	将来について考えている	3.32	3.36	3.33	3.33	
		24	卒業後の進路についていろいろ知りたい	3.37	3.43	3.31	3.29	
	⑤大学生活・課外活動	25	学友会の活動内容について知っている	2.07	2.04	2.12	2.23	
		26	大学内の部活動・サークル活動に入っている	2.64	2.74	1.88	1.99	

図 6　学生の意欲（キャンパス別、回答者全体）



		項番	設　問	我孫子C		目白C		傾向
学生の意欲	④チャレンジ精神・キャリア	18	機会があれば留学をしてみたい	1.97		2.76		
		19	ボランティア活動に参加したい	2.70		3.04		
		20	大学の授業や学友会等の課外活動以外で取り組んでいる活動がある	1.95		2.08		
		21	機会があれば大学を盛り上げるイベントなどを企画・実行してみたい	2.03		2.56		
		22	資格に結びつく勉強をしたい	3.35		3.56		
		23	将来について考えている	3.31		3.46		
		24	卒業後の進路についていろいろ知りたい	3.27		3.44		
	⑤大学生活・課外活動	25	学友会の活動内容について知っている	2.11		3.00		
		26	大学内の部活動・サークル活動に入っている	2.00		1.88		

2025 年 4 月 30 日
IR センター

「2024 年度学生生活アンケート」結果――学修成果・成長実感について

■調査と分析方法■

学修成果・成長実感に係る設問は 20 問あります（下図参照）。

各設問に対して，「あてはまらない」「ややあてはまらない」「ややあてはまる」「あてはまる」の 4 択で回答してもらいました。

分析では回答をポイント化し（「あてはまらない」=1，「ややあてはまらない」=2，「ややあてはまる」=3，「あてはまる」=4），その平均を過去 4 年の値と比較しました。

2024 年度は調査対象者数 570 名のうち回答が得られた 348 名（回答率 61.05%）の結果を分析しました。

■分析■

2024 年度卒業生の在学中の推移（1 年生時（青），2 年生時（赤），3 年生時（緑），4 年生時（紫））をみると（図 7），ほとんどの項目で年次が進むにつれてポイントが高くなっており，本学での 4 年間で様ざまな成長を実感して卒業した様子がうかがえます。とりわけ，パソコンの技能や専門知識，教養（設問 51～53）のポイントが 3.30 を超えています。学年別（図 8）および過去 4 年間の推移（図 9）をみても傾向は同様です。したがって，本学の学生はパソコンの技能や専門の知識に成長実感が強く，かつ年が高いほど成長を感じている学生が多いことがわかります（図 8）。

一方，コミュニケーション能力（設問 49）や外国語能力，国際的視野，チーム能力，社会的活動への姿勢（設問 55～58）をめぐる成長実感は比較的，乏しい様子がうかがえます。

図 7　学修成果・成長実感（卒業生、在学中の推移）

		項番	設　問	1年生時	2年生時	3年生時	4年生時	傾向
学修成果・成長実感	⑪学修成果	39	人の話を聞く力が身についた	2.79	2.93	3.15	3.20	
		40	人に話す力が身についた	2.71	2.94	3.03	3.26	
		41	読んで理解する力が身についた	2.85	2.88	3.09	3.16	
		42	自分の考えを文章で書く力が身についた	2.94	2.94	3.15	3.22	
		43	資料や文章を理解する力が身についた	2.93	2.96	3.16	3.24	
		44	論理的に考える力が身についた	2.69	2.78	3.05	3.15	
		45	社会のために役立とうという気持ちが身についた	2.79	2.86	3.06	3.17	
		46	新しいことを創造する力が身についた	2.63	2.75	2.98	2.98	
		47	社会に適応してうまくやっていく力が身についた	2.71	2.86	3.08	3.11	
		48	「企画立案」や「計画作成」を行う力が身についた	2.45	2.65	2.82	2.80	
		49	人とコミュニケーションする力が身についた	2.80	2.97	3.08	3.06	
		50	コンピュータを使って文章や資料を作る力が身についた	3.14	2.97	3.17	3.13	
		51	専門分野の知識や技術が身についた	3.15	3.16	3.32	3.43	
		52	幅広い教養や常識が身についた	2.96	3.03	3.17	3.36	
		53	人と協力しながらものごとを進める力が身についた	2.85	3.06	3.11	3.36	
		54	コンピュータを使ってデータを整理したり分析する力が身についた	2.79	2.71	2.97	2.97	
		55	外国語を使う力が身についた	2.30	2.17	2.31	2.29	
		56	国際的視野が身についた	2.21	2.25	2.45	2.43	
		57	グループの「先頭に立つ力」や、あるいは「チームをまとめる力」が身についた	2.26	2.38	2.60	2.80	
		58	ボランティア・NPOなどの社会的活動をする姿勢が身についた	2.08	2.22	2.28	2.36	

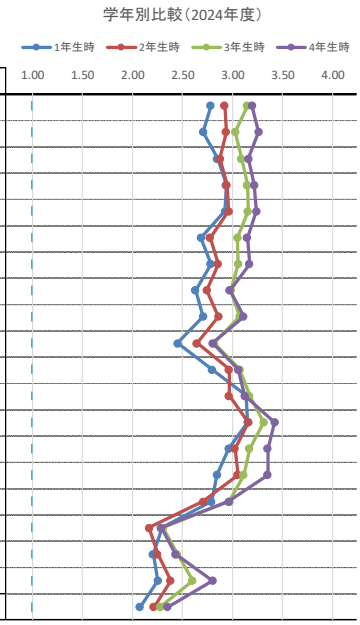


図 8　学修成果・成長実感（学年別）

学年別比較（2024年度）

1年生　2年生　3年生　4年生

		項番	設　　問	1年生	2年生	3年生	4年生	傾向
学修成果・成長実感	⑪学修成果	39	人の話を聞く力が身についた	2.97	2.91	3.11	3.20	
		40	人に話す力が身についた	2.98	2.96	3.18	3.26	
		41	読んで理解する力が身についた	2.86	2.98	3.08	3.16	
		42	自分の考えを文章で書く力が身についた	3.14	3.06	3.13	3.22	
		43	資料や文章を理解する力が身についた	3.09	3.04	3.17	3.24	
		44	論理的に考える力が身についた	2.88	2.86	3.01	3.15	
		45	社会のために役立とうという気持ちが身についた	2.84	2.99	3.04	3.17	
		46	新しいことを創造する力が身についた	2.67	2.79	2.94	2.98	
		47	社会に適応してうまくやっていく力が身についた	2.84	2.92	2.99	3.11	
		48	「企画立案」や「計画作成」を行う力が身についた	2.67	2.65	2.87	2.80	
		49	人とコミュニケーションする力が身についた	3.00	2.97	3.11	3.06	
		50	コンピュータを使って文章や資料を作る力が身についた	3.39	3.17	3.23	3.13	
		51	専門分野の知識や技術が身についた	3.21	3.23	3.37	3.43	
		52	幅広い教養や常識が身についた	3.05	3.04	3.23	3.36	
		53	人と協力しながらものごとを進める力が身についた	3.14	3.13	3.24	3.36	
		54	コンピュータを使ってデータを整理したり分析する力が身についた	3.09	2.90	2.88	2.97	
		55	外国語を使う力が身についた	2.60	2.52	2.25	2.29	
		56	国際的視野が身についた	2.38	2.34	2.32	2.43	
		57	グループの「先頭に立つ力」や、あるいは「チームをまとめる力」が身についた	2.62	2.61	2.57	2.80	
		58	ボランティア・NPOなどの社会的活動をする姿勢が身についた	2.66	2.36	2.43	2.36	

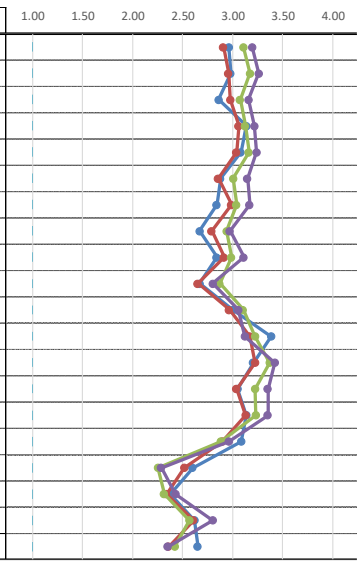
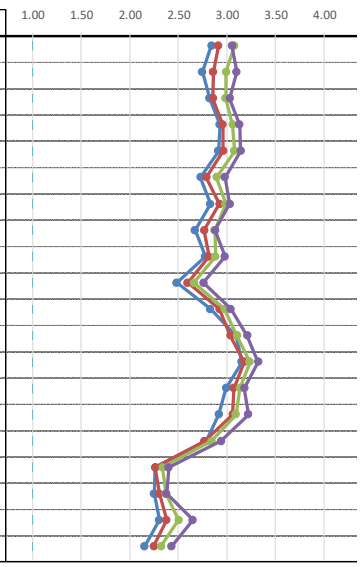


図 9　学修成果・成長実感の過去 4 年の推移（2021～2024 年度、回答者全体）

過去4年間の比較

2021年　2022年　2023年　2024年

		項番	設　　問	2021年	2022年	2023年	2024年	傾向
学修成果・成長実感	⑪学修成果	39	人の話を聞く力が身についた	2.84	2.91	3.08	3.05	
		40	人に話す力が身についた	2.75	2.86	2.99	3.10	
		41	読んで理解する力が身についた	2.82	2.86	2.99	3.03	
		42	自分の考えを文章で書く力が身についた	2.93	2.96	3.06	3.13	
		43	資料や文章を理解する力が身についた	2.91	2.96	3.08	3.14	
		44	論理的に考える力が身についた	2.73	2.79	2.89	2.98	
		45	社会のために役立とうという気持ちが身についた	2.83	2.92	2.99	3.03	
		46	新しいことを創造する力が身についた	2.67	2.77	2.87	2.88	
		47	社会に適応してうまくやっていく力が身についた	2.78	2.81	2.88	2.98	
		48	「企画立案」や「計画作成」を行う力が身についた	2.48	2.60	2.66	2.76	
		49	人とコミュニケーションする力が身についた	2.83	2.92	2.98	3.04	
		50	コンピュータを使って文章や資料を作る力が身についた	3.10	3.04	3.11	3.21	
		51	専門分野の知識や技術が身についた	3.15	3.18	3.24	3.32	
		52	幅広い教養や常識が身についた	2.99	3.07	3.13	3.18	
		53	人と協力しながらものごとを進める力が身についた	2.92	3.06	3.09	3.22	
		54	コンピュータを使ってデータを整理したり分析する力が身についた	2.79	2.77	2.84	2.94	
		55	外国語を使う力が身についた	2.26	2.26	2.34	2.40	
		56	国際的視野が身についた	2.25	2.30	2.37	2.38	
		57	グループの「先頭に立つ力」や、あるいは「チームをまとめる力」が身についた	2.30	2.38	2.50	2.65	
		58	ボランティア・NPOなどの社会的活動をする姿勢が身についた	2.15	2.25	2.32	2.43	



2025 年 4 月 30 日
IR センター

「2024 年度学生生活アンケート」結果――学修時間について

■調査と分析方法■

学修時間については 2 つの設問で調査しています。

第 1 は，「授業に係る学修時間」の設問（設問 37. 1 週間にどれくらいの時間を授業で出されたレポートや課題，授業の予習・復習の為に使っていますか）です。

第 2 は，「自主的な勉強に充てる時間」に関する設問（設問 38. 1 週間にどれくらいの時間，授業に直接関係のない自主的な勉強の為に使っていますか）です。

2024 年度は調査対象者数 570 名のうち回答が得られた 348 名（回答率 61.05%）の結果を分析しました。

■分析■

「授業に係る学修時間」は「ほとんどしない」が 5.2%，「1 時間～5 時間未満」が 66.0%，「5 時間以上」が 28.8%です。「5 時間以上」の割合は減少しているものの，「ほとんどしない」学生が減って，学修に一定の時間を割く学生が増加傾向にあります（表 1）。

一方，「自主的な勉強に充てる時間」は「ほとんどしない」が 29.2%で初めて 30%を下回りました。「1 時間～5 時間未満」は 59.4%，「5 時間以上」が 11.4%で 70%以上の学生が自主的な勉強に時間を割いており，最近 4 年の傾向としても増加しています（表 2）。

両者を比較すると，授業に係る学修より自主的な勉強により多くの時間を割いている様子がうかがえます。資格に結びつく勉強や将来への意識の高さもその背景にあるものと考えられますが，授業に係る学修時間とのバランスの必要性が示唆されます。

表 1　授業に係る学修時間の推移（2021～2024 年度、回答者全体）

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
ほとんどしない	6.2%	5.2%	5.4%	5.2%
1 時間～5 時間未満	56.8%	64.3%	65.6%	66.0%
5 時間以上	37.0%	30.5%	28.8%	28.8%

※設問 37. 「1 週間にどれくらいの時間を授業で出されたレポートや課題，授業の予習・復習の為に使っていますか」への回答。無回答の値は表示していない。

表 2　自主的な勉強に充てる時間の推移（2021～2024 年度、回答者全体）

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
ほとんどしない	34.4%	40.9%	31.0%	29.2%
1 時間～5 時間未満	54.1%	51.3%	53.7%	59.4%
5 時間以上	11.5%	7.8%	14.6%	11.4%

※設問 38. 「1 週間にどれくらいの時間，授業に直接関係のない自主的な勉強の為に使っていますか」への回答。無回答の値は表示していない。